

## これまでの習近平体制下での諸変化

(前号からの続き)

さて、中国共産党についての以上の予備知識的記述を踏まえて、以下では3期目をスタートさせた習近平政権のことについて考えていきたいと思います。第20回党大会最終日の中休みの時間帯での、雖壇最前列での胡錦濤前総書記退席の際のトラブル(?)映像が全世界に流れ、いろいろな憶測が飛び交っています。あれが何を意味するのか、どういう背景事情があったのかは隣国において興味深い一場面でした。上述のように、党総書記は党内最高指導部である中央政治局常務委員7人の1人という位置づけですが、慣例上、軍事面で党中央軍事委員会主席を兼ねる以外に、国政面では国家主席も兼ねます。この国家主席の任期についてはかつては5年を1期とし、2期10年を上限とする制度があったこともあり、中国は一党独裁の政治体制国家と見做されながらも、こうした任期制限で国家元首としての権力の独走を阻止する制度を併せもっていたと言えます。ただ、習近平体制2期目の2018

年に憲法改正が行われ、この任期制限が撤廃され、さらには習近平思想(正式名称はもつと長いのですが、ここでは省略します)が毛沢東思想とならんで党が堅持すべき思想として明記されたことから、第20回党大会から遡ること少なくとも4年前には現政権の長期化に向けた準備が始まっていたということになります。これにより、1982年の党主席制廃止にともなう党総書記制導入以来歴代の指導部が継承してきた集団指導体制という権力共有と意思決定のルールと、胡錦濤政権2期目の第17回党大会で共有された総書記と他の政治局委員との対等関係という認識が、習近平体制下で徐々に変化してきたものと言っていいたいでしょう。その変化の背景には、国内ではリーマンショックを受けての4兆元の内需振興を境に高度成長段階を終え、「新常态」とよばれる構造転換期を迎え、対外的には「一带一路」に代表される国際情勢認識が登場するなど、胡錦濤政権時代までの改革開放とは異なる中国を取り巻く内外の様々な変

化が少なからず影響していると考えられます。

此度の習近平体制継続と関連して、私は毎年、勤務先の学部で「開発経済学」という途上国や新興国の経済発展を対象にした講義も担当しているのですが、その授業で使っている教科書の中に「経済発展の政治経済学」という章があつて、『国家はなぜ衰退するのか―権力・繁栄・貧困の起源』(早川書房、2013年)の原著者であるMITのダロン・アセモグルとハーバード大学のジェームズ・ロビンソンによる制度と経済成長に関する研究を下敷きに、政治的な制度が経済発展に及ぼす影響についての考察がとりあげられています。そのなかで、民主主義ではなく、独裁制をとる国でも経済発展で成功するケースがあつて、そのための必要条件は何かについて書かれているのですが、それによると、独裁者を排除する潜在力を持つ「選択民」とよばれる存在が政治的圧力をかけることで、独裁者が権力を自分の利益のために濫用することを抑え、経済成長に寄与する政策を行うインセンティブを与え得るといふことです。さらに、独裁者の在位期間とその独裁が経済的に成功するかどうかの関係性の有無について、在位期間が短いほど独裁が成功しやすいことを見出したという結果を導いた実証研究があ

り、これにもとづけば、「選択民」が存在している時には、独裁者といえども長期的には政権が維持できない可能性が高く、結果、「選択民」が存在している独裁制が成功しやすいことを示唆しているとも述べられています。(次号へ続く)

和歌山大学の学びを浪切で  
社会人のためのキャンパス 岸和田サテライト

4つの特徴

- 1 交通アクセスが良好**
  - 南海岸和田駅から徒歩13分
  - 教室のある南海浪切ホール地下に無料駐車場を完備
  - 阪神高速湾岸線岸和田南インターから約1分
- 2 選べる学習制度**
  - 18歳以上(高校生は除く)であれば、どなたでも受講可能な「学部開放授業受講制度」
  - 経済学研究科の授業を受講できる「大学院科目等履修制度」
- 3 働きながらスキルアップ**
  - 原則として平日夜間か土曜日に開講
  - 経済社会の変化に対応した専門的講義を受講できる
  - 多様な受講生(社会人、和歌山大学の学生)と一緒に学べる
- 4 割安な学費で、1科目から受講できる**
  - 学部開放授業の聴講料11,000円(1科目)

和歌山大学岸和田サテライト TEL & FAX 072-433-0875 岸和田サテライト 検索